

# 登山月報



スポーツライミング MAMMUT CUP 2016	2
リード日本選手権&日本ユース選手権リード競技大会	
谷川岳で積雪期レスキュー講習会（東部地区）を開催	3
第89回 Mountain World	4
<b>新連載</b> 「山の日」制定記念一ふるさとの山に登ろうー	5
I F S C 総会 イラン テヘラン	6
I F S C A C C 総会	7
平成27年度理事会（第4回）報告	8
平成28年度主な事業計画	9
平成28年度収支予算	10
見えてきた中国ブロックの活性化/副会長 國松嘉伸	11
JMA、寄贈図書、編集後記	12



3月26日(土)～27日(日)に千葉県印西市の松山下公園総合体育会館でマムートカップ2016スポーツクライミング日本選手権兼日本ユース選手権リード競技大会が開催された。

今大会は、毎年開催されている日本ユース選手権と2年ぶりに開催される日本選手権の同時開催ということで、全国から240名を超える選手が参加する大規模な大会となった。また、今年は世界選手権開催年ということもあり、複数種目での出場を狙うボルダリングの有力選手が多数出場し、代表権を競う白熱した競技が展開された。

女子は100名が参加。そのうち96名が10代の選手。準決勝進出26人のうち15歳以下が7名という、若い選手が急速に力をつけている現状を反映した結果となった。一方、決勝で終了点直下まで迫ったのは、経験豊富な野口啓代、大田理紗の両選手。上部でのピンチからの1手をフォールしそうになりながら気合で止めた野口が2大会ぶり5度目の優勝を決めた。

実力者が揃う男子は、ワールドカップなどの世界レベルのルートを意識した、下部からバランスの悪いムーブが続くルートで、下部から中盤手前で落ちる選手が続出し、予選、準決勝と数名の実力ある選手が涙を飲んだ。そんな中で、昨年のベルギーで開催されたワールドカップで自身初の決勝進出を果たした樋口純裕が初優勝。予選から決勝まで安定した登りで観客を惹きつけ、2位と3位に入った是永敬一郎、榎崎智亜が苦しんだ上部のトラバースでの切り返しムーブを、冷静なフットワークで難なくこなし、国内のリード種



男子優勝の樋口純裕選手

目では、リード・ジャパンカップに続く連続優勝を成し遂げた。

また、日本ユース選手権の各カテゴリーで上位者となった、伊藤ふたば、野中生萌、菊沢絢、波田悠貴、榎崎明智らが総合成績でも上位に食い込む健闘を見せた。

今大会の結果で決まるリード種目の日本代表選手たちが、今シーズンのワールドカップや世界選手権でどのような結果を残すのか、非常に期待できる競技内容だったと云える。

＜競技成績＞			
2016 クライミング日本選手権			
第1位		樋口 純裕	野口 啓代
第2位		是永敬一郎	大田 理紗
第3位		榎崎 智亜	伊藤ふたば
第4位		藤井 快	野中 生萌
第5位		波田 悠貴	廣重 幸紀
第6位		榎崎 明智	菊沢 絢
第7位		原田 海	田嶋あいか
第8位		島谷 尚季	清水 夏子
2016 日本ユース選手権リード競技大会			
		＜ジュニア＞	＜ユースA＞
第1位	男子	波田 悠貴	榎崎 明智
	女子	野中 生萌	菊沢 絢
第2位	男子	大高 伽弥	原田 海
	女子	田嶋あいか	清水 夏子
第3位	男子	野村真一郎	中上 太斗
	女子	錦織 美里	金子 桃華
		＜ユースB＞	＜ユースC＞
第1位	男子	西田 秀聖	田中 裕也
	女子	伊藤ふたば	森 秋彩
第2位	男子	小西 桂	村下 善乙
	女子	瀧川 萌美	谷井 菜月
第3位	男子	高島 悠吾	高山 優槻
	女子	平野 夏海	阿部 桃子



入賞者全員

## 谷川岳で積雪期レスキュー講習会(東部地区)を開催

平成27年度積雪期レスキュー講習会が1月29日(金)～31日(日)谷川岳の土合山の家周辺で行われた。この講習会はtotoの助成を受け開催されたものでクラス1、クラス2、クラス3の3コースの講習を行い、36名が受講した。今年は例年になく雪が少なく、初日は天気も悪く心配されたが若い受講者や女性が多く、活気のある講習会となった。

全員で雪崩現象(雪崩について)を学んだ後、クラス別に行動した。クラス1は日本雪崩ネットワークのセーフティーキャンプのカリキュラムに従い、雪崩についての学習と対応を中心にJANの出川講師と服巻常任委員が講師を務め、11名が受講した。このクラスは遭難対策の中でも事故予防を主眼としたもので、雪崩地形(講義&演習:雪崩地形特に発生区の認識)、降雪と積雪(講義:降雪の種類と積雪内の温度勾配による球形化と再結晶化について)、安全行動(講義&演習:雪山での行動原則、雪崩地形内での行動様式)、雪崩埋没者の捜索救助(講義&屋外実習)、雪質観察(屋外実習)、雪崩地形の認識と行動(屋外実習)、危険度の理解(屋内演習:屋外での雪質観察結果とフィールドでの地形や雪崩発生状況から現状の危険性を評価)、雪崩埋没者の捜索救助(屋外演習:4人埋没(内1名はビーコンなし)をグループでの捜索演習)を映像や現地で見つちりと学んだ。雪が少ないためロープウェイで天神平まであがって行われた。

クラス2は15名で2班に分かれ、石田常任委員および一本松常任委員が主任講師を務めた。このクラスは積雪の断面観察、ジャンプテスト、弱層テスト(シャベルテスト、ハンドテスト)、埋没体験、埋没者の掘り出し、低体温症の処置、対応、ビーコンによる捜索、プローブによる捜索、要救者の梱包、搬送(平地のみ)、シェルター(スノーマウント)構築、一連の流れをシ



搬送のためツェルトで梱包

ミュレーションを行った。

クラス3は10名で町田常任委員が主任講師を務め、オリエンテーションの後、屋内ロープワーク(ローダウンと引き上げシステム、流動分散)、低体温症についてのメカニズムと予防、対策、屋内のアバランチトレーニング(ビーコンの種類と特性、プロービング)、屋外ロープワーク(支点について)、雪崩予防復習(スタビリティテスト)、屋外のアバランチトレーニング(ビーコン捜索、プロービング、掘り出し)、総合シミュレーション、シェルターについて学んだ。

今回の講習も初心者が多かったが、ビーコンの普及を図る意味でも必携にしたが、みなさん持参し問題はなかった。募集期間を遅く、短くしたので最初集まりが遅く心配されたがちょうど良い人数となり、雪が少なかったが充実した講習となった。

(遭難対策委員長 西内 博)



プロービングの練習



雪崩埋没者の救出総合シミュレーション

## 第88回 Mountain World

### パタゴニア2015 / 16 後半戦

#### 池田常道

今季は比較的好天にめぐまれたのに加え、アメリカ人を初め実力あるクライマーが集結したこともあって、近年にない成果が挙げられたシーズンとなった。2月号ではセロ・トーレとトーレ・エガーに絞って書いたが、今回はフィッツロイの新ルートや、チリ側のパイネ山群で行なわれた登攀も含めて取り上げる。

「ライダーズ・オン・ザ・ストーム」は、1991年1月に故ヴォルフガング・ギュリッヒがパイネ中央岩塔(約2400m)の東壁に拓いたフリー主体のルート名である。当時フリークライミングの第一人者だったギュリッヒは、クルト・アルベルトと組んで辺境のビッグウォールにフリールートを拓こうとした、3ピッチのA2と3ポイントのA0を残した。06年に第3登したベルギーのニコラ・ファヴレスもフリー化に失敗していた。

ニュージーランドのメイヤン・スミス=ゴバト(36)とドイツのイネス・パペルト(41)は、女性ペアとして初めてこのルートに挑んだ。1月末から取りかかってテンション・トラバースの箇所を5ピッチのフリー・バリエーションで迂回、2月6日頂上に抜けた。通算第5登である。その後残るエイドピッチをフリー化しようとしたものの、悪天候に阻まれた。

アルゼンチン側では、フィッツロイ(3405m)に3本の新ルートが刻まれた。まず1月20日、ピート・ファソルトとジョナサン・シェーファー(米)が北壁に「プリティ・バード」(1000m、5.12 a、A0)を開拓。スーパー・クーロワール左のフェースをたどるもので、北西壁アファナシエフ・ルート(79年)と数ピッチを共有、上部でもクリニカ・デ・アベントウラ(10年)を3ピッチたどった。ビバークは登りと下りにそれぞれ1回、中間部のグラン・オテルで行なわれた。

クイン・ブレット、マックス・パールリン、マイク・ルーケンズ(米)は南壁ワシントン・ルート(11年)の右手を500mにわたってたどり、「コロラド・ルート」(5.11 c/d)とした。マーク・ウェストマンとベン・アードマンが第2登して、質の高さを報告している。

1月30日~31日、スロヴァキアのミハル・サボフ

チクとヤン・スモレニが南壁の新ルートを登って「アサド」(700m、5.12 a、C2、M8)とした。カナダ・ルートの左手を13ピッチ登ってからこれに合流、最後はボリス・シモンチッチのルートでフィニッシュ。8ピッチ目の終了点と頂上でビバークしている。

2月号に報じたとおり、1月31日にセロ・トーレ(3102m)の南下縦走を20時間40分でやり遂げたコリン・ヘイリーとアレックス・オノルドは2月6日にウェーブ・イフェクトを17時間で登った。フィッツロイから南西方向に連なる岩峰(アグハ・デスモチャダとラ・シージャ)を縦走して頂上に至るもので、全長1900mの長丁場。2人は道中シージャのエル・バスタルドをフリー化してトータルのルート名を「ウェーブ・イフェクト・ダイレクト」(5.11 b)と改めた。

セロ・トーレでは、イタリアのマッテオ・デッラ・ボルデッラとシルヴァン・シュープバッハが1月30日~31日、マエストリのボルト梯子に頼らずに南東稜から登頂、スイスのロジェ・シェーリとフリードリッヒ・マーデラー、トビアス・ズツテレとクリスチャン・レーダーガーバーも続いた(第4~6登)。また、アメリカのアンドルー・ロースナー、マイキー・シェーファー、ジョシュ・ウォートンは、2012年のダーフィット・ラマに次ぐフリー第2登に成功した。



パイネ中央岩塔東壁「ライダーズ・オン・ザ・ストーム」女性ペアのラインを示す。

## 「山の日」制定記念

—ふるさとの山を登ろう—

香川県・小豆島

## 1. はじめに

瀬戸内海に浮かぶ小豆島は周囲約140kmで海と山が直結し、四季それぞれに素晴らしい景観が楽しめます。特に、日本三大渓谷美のひとつに数えられる寒霞渓(612m)をはじめ東側には瀬戸内海で最高峰の星ヶ城(816m)や西側には美しの原高原(777m)など登山者の体力に合わせて自由に自然を楽しむ登山コースやスポットがたくさんあります。

## 2. 寒霞渓の登山コース

路線バスまたは車で“紅雲亭ロープウェイ乗り場”で下車すると、もう眼前には集塊岩が浸食されてできた崖の奇岩が乱立しています。ここから徒歩で表参道(表12景)を登り途中『錦屏風』、『玉笥峰』、『烏帽子岩』等々の奇岩を縫って1時間程で“四望頂”に到着します。展望台からの眺めは今までの苦労や汗がぬぐわれる様な絶景が広がります。さらに見晴らしの良い遊歩道に沿って歩くと“ロープウェイ山頂駅”に到着。そこからさらに目の前の三笠山(672m)に登り尾根に沿って進むと50分程で播磨灘も展望できる星ヶ城に到着します。星ヶ城への道は良く整備されているので、西峰から東峰まで足をのびし展望を楽しみましょう。

ロープウェイ山頂駅、からの帰りはロープウェイに乗って眼下に広がる渓谷美を眺めながら“紅雲亭ロープウェイ乗り場”まで約5分間で下る、もしくは徒歩で裏参道(裏8景)を下り途中『松茸岩』、『石門』等々の奇岩を縫って35分程で終点“猪谷池”に到着、さらに車道を10分歩くと“紅雲亭ロープウェイ乗り場”に戻るコースがあります。

## 3. 美しの原高原の登山コース

小豆島は花崗岩の上に集塊岩さらにその上に安山岩と三層構造で形成され、島内の山の大半は集塊岩や花崗岩が断崖絶壁になって取り巻いている。寒霞渓の西方に位置する美しの原高原の“四方指”展望台からは寒霞渓や瀬戸内海、内海湾等に点在する島々が一望出来ます。

## 4. パワースポット『窓(マド)』

このコースは地元でもあまり知られてなく、登山道も整備されていない為に迷いやすいコースでもある。“四方指”から南西方に距離にして約1.1km、時間にして約1時間30分の位置にある。“四方指”の展望台から下に南東方向へ稜線に沿って下ると崖になって



寒霞渓

おり、そこから南に折れブッシュになっているが道標、テープ等に注意して進めば小道にでる。この道を進ると峠(鞍部になっており石柱とお地蔵が立っている)の分岐点に出る。この付近は壇山、中山、銚子溪コースの分岐点でもある。さらに東側の崖に沿って“草壁コース”をジグザグに約10分下ると不動明王の水場があり、さらに右の巨大な岩壁の根元を約20分テープに沿って進むと突如左に大きな石門『窓(マド)』が開かれている。ここは島の中心部にあたり神秘的な静けさと荘厳さを保っており身体が引き締まる思いもする場所でもある。

## 5. ロッククライミングスポット

小豆島は本格的なロッククライミングスポットでもあります。橘地区にある“拇指岳”の岩壁は約150mの高さで傾斜角は60度以上で天空に突き出ている。5ピッチのダイレクトルートがあります。背後には千羽ヶ嶽が控えておりクライミングをしなくても“拇指岳”周辺のハイキングは変化に富んでいる。吉田地区に千畳ヶ岳があり、岩場として有名になっている。ルートは初歩から難度までバリエーションが豊富です。登山道入口がオートキャンプ場、ラドン温泉場の横にあり、周辺では川遊びや虫等たくさんの自然遊びができる家族連れのスポートでもある。

## 6. 最後に

小豆島全体が登山コースであり、ハイキングコース、サイクリングコースさらには島88ヶ所の遍路道でもある。私達登山者が恩恵を受けている標高の基準となる三角点、水準点は小豆島産の花崗岩で作られており、石の文化や丁場さらに三角点を探訪するのも楽しみとなるでしょう。小豆島へは神戸三宮港、兵庫姫路港岡山日生港、新岡山港、香川高松港から乗船できます。島内の路線バスは本数が少なく自家用車の利用をお勧めします。

(記 香川県山岳連盟 三枝公明)

## IFSC総会 イラン テヘラン

出席 小日向徹 安井博志

2016年 IFSCの総会は2月20日にイランのテヘランで行われた。出席した投票権のあるNFは33(うち12が代理投票による出席)と、これまでの通常の総会に比べて非常に出席の少ない総会であった。IFSC役員の話では、IFSC総会開催地としてイラン・テヘランに投票しておきながらイランに来なかったNFもあるという。(もう1つの総会開催地候補は、カナダのケベック) 北米、中南米からの出席は無しだった。

日山協からは小日向と安井の2名が参加。ビザの取得が上手くいかず、空港でのアライバルビザを取得する予定で出発したが、不安はあった。空港ではおおよそ1時間半かけてビザを取得し入国できた。ちなみにE-VISAを取得したうえで到着したイギリスBM Cからの参加者は入国拒否にあい、強制送還されてしまったという。

### 2月19日 ワークショップ

NF国内競技団体はどうやってその役割を果たすことができるのか?主に、2020東京五輪でのスポーツクライミング採用をにらんで、IFSC加盟の各NFに変革をつよくせまる内容であった。



#### ポイントは

- 真の国内スポーツ競技団体(NF)への変革が必要
  - NOC(国内オリンピック委員会)やスポーツ界などNFの上層部の圧力で変えざるを得なくなる前に自らを変えたほうがよい。現在のNFの種類は大きく2つ、1つはスポーツクライミングのみを統括するNF、もう1つは複数の活動を統括するNF。それぞれに対して、早急な対応を求める。
- スポーツクライミングのみの競技団体(Sport Climbing Federation、イタリア、オーストリア、ア

リカなど)には下記を強く求める。

- 民主的な運営(年次総会や開かれた選挙制度)
- 選手委員会
- アンチドーピング  
複合スポーツ団体(Multi Sports Federation) 日本はこれにあたる
- スポーツクライミング部門の独立性と自治の確保
- 財政的
- 政治的
- 組織名称に スポーツクライミングを含むこと  
その後は、各NFからの現状報告や意見・事例紹介が行われた。



席上IFSC会長から、「2020開催地の日本では、日山協がすでに諮問委員会を設置し対応をはじめており、複合スポーツ団体の場合には良い手本になるので、紹介を」と言われたため、簡単に諮問委員会の取組を紹介した。とはいうものの、諮問委員会が3月末には、組織および組織名称についての答申を出す予定なので、いま語れることは少ないことも伝えた。(その後、総会期間を通じて各NFの参加者と情報交換を行った。)

### 2月20日 IFSC総会

総会が始まって直ぐに、小日向がスクーテニア(投票検査人)に指名された関係でメモは余り取れていない。昨年は断ったが、今年は、安井が一緒なので引き受けても大丈夫だと判断した。大きなトピックは、アフリカからの加盟や、加盟NFの変更申請が増えていることだろう。また、かなりの時間を2020東京五輪関連に費やされた。

なお、日山協は、2020東京五輪関連での多大な貢献により2015IFSCのゴールデンメンバーとしての表彰と、2015国別ランキング3位の表彰を受けた。

主な議事は以下の通り。

- 加盟要件については変更。これは、NFがまだIFS

Cに加盟できていなくても、選手がIFSCイベントへの参加を希望する場合に道を開くための変更。

#### ○新規加盟

ボツワナ、マカオ、ルワンダ、セネガル

#### ○加盟NFの変更

山岳団体からスポーツクライミング団体への変更についてカナダ、メキシコ、モンゴルなど

#### ○2015 IFSC ゴールドメンバー 表彰

フランス、イタリア、中国、日本

#### ○2015 国別ランキング 表彰

1位・フランス、2位・ロシア、3位・日本

#### ○2016 年料金体系 (別紙)

#### ○NFの変革について。

ワークショップとほぼ同内容。NFの変革を今まで以上に求めていく。

#### ○今後の予定

##### ① IFSC大会

2016 WCH パリ

2017 WYCH インスブルック オーストリア  
(2018は同地でWCH予定)

2018 WCH インスブルック

2018 WYCH ケベックシティ カナダ

2019 WYCH オセアニア

(開催権権利破棄 他地域で開催可能に)

2020 WCHは東京五輪と重なる可能性大のため、8月のリオでの決定後次の総会で協議

##### ②マルチスポーツイベント 予定

2016 大学世界選手権 中国

2017 ワールドゲームズ 3種目 LBS

2017 ワールドビーチゲームズ サンディエゴ USA  
Bのみ高い可能性

2018 アジアゲームズ インドネシア 高い可能性

##### ③ IFSC総会

2017総会 ケベックシティ カナダ

2018総会 インスブルック オーストリア

## IFSC ACC 総会

出席 小日向徹 安井博志

IFSCアジアカウンシルの総会はIFSC総会に先立つ2月19日に開催された。参加者は17名、参加NFは、香港、日本、韓国、イラン、中国、シンガポール、ネパール、台湾、タイ、パキスタン、インド。オセアニアカウンシルの会長と、元IFSC事務局長のラインダート(オランダ)の2名がオブザーバー参加。

### 1. 2015報告

ベトナムから加盟希望。フランス人経営によるクライミングジムを中心とした組織ということ。

UAE(アラブ首長国連邦)からは、アジア・カップの開催希望の連絡が来ているが、まずはACC、IFSCに入るのが先であることを連絡済とのこと。同様にカタルからも加盟希望の連絡がきているとのこと。

### 2. NFの問題 ネパール

別のスポーツクライミングを名乗る協会が生まれ、IFSCにコンタクトを取りはじめている。NFとして国内選手権を開催。NOCメンバーや他の国内競技団体のようになる方向を推進していくようにアドバイスされた。

イラン(すでに名称変更済)と日本のケース(諮問委員会が設置された)が紹介された

### 3. ACH(アジアチャンピオンシップ)

中国で8月3日~6日(2/26確認済)に開催  
この日程の場合、9月のWCHに関して、2015年のACH優勝の野中、是永、堀はIFSC枠を失う。

### 4. AYCH(アジアユースチャンピオンシップ)

イランで9月27日~10月1日に開催種目:LBS、年齢カテゴリ: Jr、YA、YB、YCの予定

YCは、11歳、12歳、13歳で行うが、たとえIFSCカレンダーに掲載されても、開催に関しての変更は起こり得る。



## 平成27年度理事会(第4回) 報告

1. 日時 平成28年3月6日(日) 10時30分～15時40分

2. 場所 フォーラムエイト1107会議室(東京・渋谷)

### 3. 出席者

理事：八木原罔明、尾形好雄、國松嘉伸、高橋時夫、  
亀山健太郎、小野寺齊、西内博、仙石富英、瀧本健、  
水島彰治、森下健七郎、京才昭、相良忠麿、増山茂、  
小野倫夫、齊藤喜代志、小宮山稔、牧野治生、亀井正  
明、伊藤克己、大西一俊、峯本典寛、下田泰義、各理  
事以上23名

監事：内藤順造、岡本忠良、中畠正喜、以上3名  
(欠席者)中瀬和徳・北村憲彦理事：以上2名

### 4. 開 会

八木原会長の挨拶に続いて、定款第32条第1項に定  
めるところにより、八木原会長が本会議の議長となり、  
定款第33条第1項に定める定足数の充足を確認して、  
本会議の開会を宣言した。

次いで定款第34条第2項に基づき議事録署名人を八  
木原会長、内藤・岡本・中畠各監事とし、議案の審議に  
入った。

### 6. 報 告

(1)報告第1号 平成27年度第2次補正予算について

相良理事から資料に基づき、報告された。(異議無く、  
全員が了承した。)

(2)報告第2号 平成27年度事業及び会計経過報告につ  
いて

小野寺常務理事から平成27年度事業経過報告がなさ  
れ、続いて相良理事から平成27年度会計経過が報告さ  
れた。

第2次補正予算後の予算と実績の差異が大きい科目  
は第3次補正予算で修正することなどで了承。

(3)報告第3号 平成27年度山岳共済会事業及び会計経  
過報告について

尾形専務理事から資料に基づき、経過報告がなされ  
た。(全員が了承。)

(4)報告第4号 業務執行理事・職務報告

事前に提出してある報告資料に基づき業務執行理事  
が各々報告を行った。

業務執行理事以外の理事の担務等についての質疑  
後、報告事項は全員が了承した。

### 7. 議 事

(1)議案第1号 平成28年度事業計画(案)について

小野寺齊常務理事が議案説明を行い、説明終了後、議  
長が議場に諮った。

ジュニア登山教室、五輪種目化に伴う予算規模の大  
型化、「山の日」記念事業などについての質疑の後、議案  
第1号は、賛成23、反対0で承認可決された。

(2)第2号議案 平成28年度収支予算(案)について

相良理事が議案説明を行い、説明終了後、議長が議場  
に諮り、議案第2号は、賛成23、反対0で承認可決され  
た。

(3)第3号議案 平成28年度山岳共済会事業計画(案)  
及び収支予算(案)について

尾形専務理事が議案説明し、説明後、議長が議場に諮  
り、議案第3号は、賛成23、反対0で承認可決された。

(4)議案第4号 自然保護指導員規約一部改訂について

小野寺常務理事が資料に基づき、説明を行い、議場に  
諮られた。

高校生の資格付与については、継続審議とすることで  
承認。

(5)議案第5号 クライミングルートセッター規程につ  
いて

森下常務理事が資料に基づき説明を行い、説明後、議  
長が議場に諮り、議案第5号は、賛成19、保留4、反対  
0で承認可決された。

(6)議案第6号 国民体育大会規則集の一部(行動役員)  
改正について

森下常務理事が資料に基づき説明を行い、説明後、議  
長が議場に諮った。議案第6号は、全員一致で承認可決  
された。

### 8. その他

(1)平成27年度代表者会議報告

小野寺常務理事から資料に基づき、報告を行った。

(2)会長諮問委員会報告

小野寺常務理事から4回行われた諮問委員会の経過  
が報告された。

(3)新ビル(岸記念体育会館の後)移転計画について

小野齊常務理事から2017年夏着工、2019年春竣工の  
新ビルの建設概要が報告された。

(4)ホームページ・リニューアルについて

瀧本常務理事から資料に基づき、今秋納品予定のリ  
ニューアル(案)について報告された。

### 9. 閉 会

以上をもって全ての議事の審議を終了したので、議  
長は15時40分、閉会を宣した。

(記 尾形好雄)



## 平成28年度主な事業計画

### 1. 会議等

- 総会 5/29(日)
- 理事会  
5/14(土)、5/29(日)、11/13(日)、29年3/5(日)
- 全国理事長会議 29年2/12(日)
- 全国参与会 11/4(金) 島根県
- 新春懇談会 29年1/14(土) アルカディア市ヶ谷

### 2. 専門委員会総会

- 競技部委員総会 4/3(日) 岸記念体育会館
- 指導委員総会 6/11(土)～12(日) 東京海員会館
- 国際委員総会 兼 第55回海外登山技術研究会  
6/11(土)～12(日) 京都府ゼミナールハウス
- 遭難対策委員総会  
6/25(土)～26(日) 上尾市スポーツ総合センター
- 自然保護委員総会  
9/3(土)～4(日) 国立オリンピック記念青少年総合センター

### 3. 青少年育成事業

- 第60回全国高等学校登山大会 8/6(土)～10(水)  
岡山県・蒜山
- ジュニア普及情報交換会  
2/11(土) 国立オリンピック記念青少年総合センター
- みんな集まれ! ジュニア登山教室 in 立山 2016  
8/17(水)～20(土) 国立立山青少年自然の家、立山周辺
- みんな集まれ! なすかし雪遊び隊 2017  
3/25(土)～26(日) 国立那須甲子青少年自然の家

### 4. 安全登山の啓発事業

- 中高年安全登山指導者講習会
- ① 東部地区(新潟・角田山) 9/23(金)～25(日)
- ② 西部地区(徳島・剣山) 10/8(土)～10(月)
- 山岳レスキュー講習会
- ① 西部地区(富山県・国立登山研修所)  
9/9(金)～11(日)
- ② 東部地区(群馬県・土合山の家)  
1/27(金)～29(日)
- 第55回全日本登山大会  
11/4(金)～6(日) 島根県・三瓶山周辺
- 第1回「山の日」記念全国大会 8/11(木・祝) 上高地
- 「山の日」祝日記念「ふるさとの山を登ろう」  
各都道府県山岳連盟(協会)が主管して実施
- 海外登山懇談会 11/10(木) 国立オリンピック記念青少年総合センター

- 平成28年度全国山岳遭難対策協議会  
7/8(金) 国立オリンピック記念青少年総合センター

### 5. 登山指導者育成事業

- 氷雪技術研修会 4/29(金)～30(土) 富士山
- 登攀技術研修会 10/1(土)～2(日) 長崎県山岳連盟
- 氷雪技術研修会 2/18(土)～19(日) 大山
- S Cコーチ養成講習会  
前期 6/24(金)～26(日) 都岳連会議室  
後期 7/16(土)～18(日) 明大大泉キャンパス  
及び昭島市総合スポーツセンター

### 6. 競技会運営事業

- I F S C クライミングWCボルダリング加須大会 2016  
4/23(土)～4/24(日) 加須市民体育館
- 日本ユース選手権ボルダリング競技大会  
5/14(土)～15(日) 倉吉市体育文化会館
- 第30回リード・ジャパンカップ  
6/11(土)～6/12(日) 岩手・盛岡市
- 第19回JOCジュニアオリンピックカップ  
8/13(土)～15(月) 富山県南砺市桜が池CC
- 全国ルートセッター研修会
- ① 8/16(火)～18(木) 南砺市桜が池c c
- ② 12/26(月)～28(水) 加須市民体育館
- 第71回岩手国体山岳競技大会  
10/7(金)～9(日) 岩手県盛岡市
- 第7回全国高等学校選抜クライミング選手権大会  
12/24(土)～25(日) 加須市市民体育館
- 第12回ボルダリング・ジャパンカップ  
1/28(土)～29(日) 代々木第二体育館(予定)
- 日本選手権  
3/4(土)～5(日) 加須市民体育館
- 日本ユース選手権リード競技大会  
3/25(土)～26(日) 印西市松山下公園総合体育館

### 7. 競技力向上事業

- I F S C クライミング世界選手権  
9/14(水)～18(日) フランス パリ
- I F S C 世界ユース選手権  
11/7(月)～13(日) 中国・広州

### 8. 国際交流事業

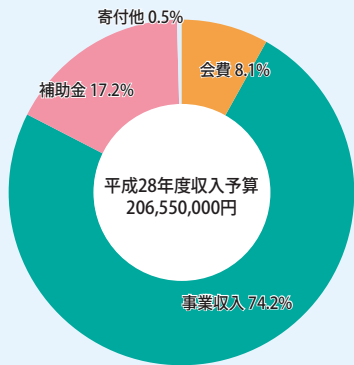
- ロシア・クライミング代表団の受け入れ  
4/11(月)～4/24(日) 小川山、瑞牆山、富士山
- BMC International Climbers Meetへの派遣
- 国際山岳連盟(U I A A) 総会  
10/12(水)～16(日) イタリア

平成28年度 収支予算

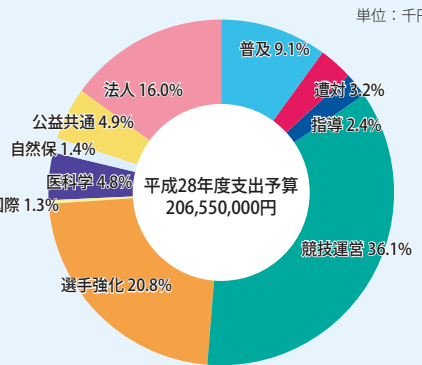
【予算内訳】 平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

科目	公益会計									法人会計	合計	
	普及	遭難対策	指導	競技会運営	競技力向上	国際交流	自然保護	医科学	公益共通			
I 一般正味財産増減の部												
1. 経常増減の部												
(1) 経常収益												
基本財産運用益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基本財産受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産運用益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16,768,000	16,768,000	16,768,000
正会員受取会費										2,800,000	2,800,000	2,800,000
加盟分担金受取会費										10,000,000	10,000,000	10,000,000
賛助会員受取会費(個人・団体)										3,968,000	3,968,000	3,968,000
事業収益	15,814,000	4,800,000	3,451,000	58,300,000	37,520,000	2,773,000	2,850,000	2,414,000	10,130,000	15,262,000	153,314,000	153,314,000
共済会委託事業収入	12,733,000	3,700,000	2,074,000	3,680,000	1,700,000	2,517,000	990,000	2,414,000	7,130,000	3,062,000	40,000,000	40,000,000
登録料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11,200,000	11,200,000	11,200,000
参加者負担金	2,581,000	1,100,000	1,377,000	11,670,000	16,780,000	253,000	1,860,000	0	0	0	35,621,000	35,621,000
協賛金	500,000	0	0	38,400,000	19,040,000	0	0	0	0	1,000,000	58,940,000	58,940,000
広告料	0	0	0	0	0	0	0	0	3,000,000	0	3,000,000	3,000,000
競技会収入	0	0	0	4,400,000	0	0	0	0	0	0	4,400,000	4,400,000
その他事業収益	0	0	0	150,000	0	3,000	0	0	0	0	153,000	153,000
受取補助金等	2,900,000	1,838,000	1,500,000	16,320,000	5,500,000	0	0	7,410,000	0	0	35,468,000	35,468,000
日本スポーツ振興センター委託金	2,900,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,900,000	2,900,000
日本オリンピック委員会助成金	0	0	0	200,000	5,500,000	0	0	0	0	0	5,700,000	5,700,000
国民体育大会補助金	0	0	0	7,020,000	0	0	0	0	0	0	7,020,000	7,020,000
日本体育協会助成金	0	0	1,500,000	0	0	0	0	0	0	0	1,500,000	1,500,000
スポーツ振興くじ助成金	0	1,838,000	0	0	0	0	0	7,410,000	0	0	9,248,000	9,248,000
スポーツ振興基金助成金	0	0	0	7,400,000	0	0	0	0	0	0	7,400,000	7,400,000
受取負担金等	0	0	0	1,700,000	0	0	0	0	0	0	1,700,000	1,700,000
受取寄付金等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,000,000	1,000,000	1,000,000
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,000,000	1,000,000	1,000,000
雑収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
雑収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常収益計	18,714,000	6,638,000	4,951,000	74,620,000	43,020,000	2,773,000	2,850,000	9,824,000	10,130,000	33,030,000	206,550,000	206,550,000
(2) 経常費用												
事業費	18,714,000	6,638,000	4,951,000	74,620,000	43,020,000	2,773,000	2,850,000	9,824,000	7,230,000	0	170,620,000	170,620,000
給料手当	1,570,000	1,230,000	1,890,000	400,000	3,690,000	1,120,000	220,000	560,000	460,000	0	11,140,000	11,140,000
通勤費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退職給付費用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
賞与引当金繰入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福利厚生費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会議費	340,000	70,000	323,000	670,000	150,000	167,000	160,000	50,000	30,000	0	1,960,000	1,960,000
旅費交通費	4,230,000	2,800,000	1,747,000	9,940,000	30,600,000	948,000	1,747,000	598,000	0	0	52,610,000	52,610,000
通信運搬費	96,000	0	0	511,000	0	23,000	71,000	0	1,350,000	0	2,051,000	2,051,000
減価償却費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消耗品費	96,000	700,000	0	1,500,000	470,000	0	0	30,000	0	0	2,796,000	2,796,000
印刷製本費	335,000	10,000	65,000	5,340,000	0	40,000	256,000	0	5,300,000	0	11,346,000	11,346,000
光熱水料費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
賃借・リース料	170,000	250,000	99,000	7,410,000	1,900,000	50,000	0	0	30,000	0	9,909,000	9,909,000
保険料	75,000	40,000	70,000	757,000	20,000	0	41,000	0	0	0	1,003,000	1,003,000
諸謝金	2,020,000	1,238,000	610,000	7,260,000	880,000	90,000	150,000	70,000	0	0	12,318,000	12,318,000
租税公課	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大会施設修繕補助・助成金支出	0	0	0	23,150,000	0	0	105,000	0	0	0	23,255,000	23,255,000
支払負担金及び選付金	0	200,000	0	5,762,000	0	0	0	0	0	0	5,962,000	5,962,000
支払助成金及び事業交付金	0	0	0	1,350,000	0	200,000	0	350,000	0	0	1,900,000	1,900,000
委託費	7,650,000	0	120,000	5,440,000	0	50,000	100,000	8,166,000	0	0	21,526,000	21,526,000
現地サポート費用	0	0	0	50,000	2,800,000	0	0	0	0	0	2,850,000	2,850,000
大会記念品費	1,010,000	0	0	550,000	0	0	0	0	0	0	1,560,000	1,560,000
大会賞金	0	0	0	2,909,000	0	0	0	0	0	0	2,909,000	2,909,000
報奨・奨励金	1,100,000	0	0	160,000	2,500,000	0	0	0	0	0	3,760,000	3,760,000
雑費	22,000	100,000	27,000	1,461,000	10,000	85,000	0	0	60,000	0	1,765,000	1,765,000
管理費	0	0	0	0	0	0	0	0	2,900,000	33,030,000	35,930,000	35,930,000
役員報酬												
給料手当										5,220,000	5,220,000	5,220,000
通勤費										1,200,000	1,200,000	1,200,000
退職給付費用										1,775,000	1,775,000	1,775,000
賞与引当金繰入										0	0	0
福利厚生費										1,200,000	1,200,000	1,200,000
会議費										550,000	550,000	550,000
旅費交通費										7,800,000	7,800,000	7,800,000
通信運搬費										700,000	700,000	700,000
減価償却費										0	0	0
消耗品費										500,000	500,000	500,000
印刷製本費										1,000,000	1,000,000	1,000,000
光熱水料費										50,000	50,000	50,000
賃借・リース料										2,400,000	2,400,000	2,400,000
支払会費										2,300,000	2,300,000	2,300,000
保険料										300,000	300,000	300,000
租税公課										1,500,000	1,500,000	1,500,000
支払負担金及び選付金										4,835,000	4,835,000	4,835,000
交際費										500,000	500,000	500,000
支払報酬										300,000	300,000	300,000
手数料										400,000	400,000	400,000
IT関連										2,900,000	500,000	3,400,000
雑費										0	0	0
経常費用計	18,714,000	6,638,000	4,951,000	74,620,000	43,020,000	2,773,000	2,850,000	9,824,000	10,130,000	33,030,000	206,550,000	206,550,000
評価損益等調整前当期経常増減額												
評価損益等計												
当期経常増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2. 経常外増減の部												
(1) 経常外収益												
経常外収益計											0	0
(2) 経常外費用												
経常外費用計											0	0
当期経常外増減額											0	0
指定正味財産から振替額												
当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一般正味財産期首残高											50,654,184	50,654,184
一般正味財産期末残高											50,654,184	50,654,184
II 指定正味財産増減の部												
受取寄付金等											0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30,000,000	30,000,000	30,000,000
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30,000,000	30,000,000	30,000,000
III 正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	80,654,184	80,654,184	80,654,184

収入予算	
会費	16,768
事業収入	153,314
補助金	35,468
寄附他	1,000



支出予算	
普及	18,714
遭難対策	6,638
指導	4,951
競技運営	74,620
選手強化	43,020
国際	2,773
医科学	9,824
自然保	2,850
公益共通	10,130
法人	33,030



## 見えてきた中国ブロックの活性化

副会長 國松 嘉伸

去る3月12日～13日の2日間、「岡山シテイホテル 厚生町」において、平成27年度「中国地区山岳連盟（協会）連絡協議会」が、岡山県山岳連盟主管で開催された。

今回で3度目の参加となったが、この3年間で中国地区山岳連盟（協会）の新たな息吹を感じることができた。

ご承知のように、中国地区は、東西に長く、例えば山口県山口市から鳥取県鳥取市まで直線距離で290キロメートルもあり、また、地形的にも、中国山脈を境に日本海側と瀬戸内側に分断され、気候、風土、産業なども大きな違いがある。

そのため、中国地区5県（鳥取、島根、岡山、広島、山口）が互いに連携しあうことは大変なことだが、今から30年前の昭和61年に連絡協議会が立ち上げられ、各県持ち回りで年度末に連絡協議会が開催され今日に至っている。

しかも、最近の中国地区には活気がみなぎっている。

全国に例を見ない広島岳連の独特の経営はもとより、山口県に代表されるスポーツライミングの普及振興は、中国ブロック全域に広がりを見せ、昨年からは鳥取県山協では「日本ユース選手権ボルダリング競技大会」を主管されている。

また、島根県ではこの秋11月に「全日本登山大会」の主管をされるし、岡山岳連では、岡山県フリークライミングクラブ（OFC C）が、岡山県でのクライミングイベントの企画、運営を一手に引き受け、今回の連絡協議会の運営にも中心的な役割を果たされた。

事ほど左様に、最近の中国地区の取り組みは、活気に満ちており、全国各ブロックも大いに参考とすべきである。

今回の連絡協議会では、1日目に「第71回国民体育大会中国ブロック大会」の実施に関する役割分担や競



技運営全般の細部に亘る確認をはじめ、各県の様々な取り組み（開催事業）などの情報交換が行われ、2日目は、愚生から「日山協四方山話」をテーマに講話をさせてもらった。

日山協が拠って立つ原点は、我が国の登山界を代表する団体として、「安全登山を第一に山の環境と文化に配慮した登山および山岳スポーツの普及振興」にある。

このことを念頭に、今後とも圧倒的多数を占める登山愛好者が求めてやまない安全登山と山の環境や文化を守り育てながら、スポーツライミングの確かな発展のために努力しなければならない。

結びに、今回もまた中国地区連絡協議会の皆様に殊のほかお世話になりました。

心から感謝とお礼を申し上げ、併せて今後ますますのご発展をご祈念申し上げます。

米国本土最高峰(4418m)の頂を目指し、同時に本土最低地点(-86m)も訪れる

### 米国本土最高峰Mt.ホイットニー登頂と デスバレー国立公園 10日間

限定 **10**名様

発着地 **東京** 出発日 **8/18(木)・9/1(木)**

旅行代金 **¥688,000～¥698,000**

※燃料サーチャージ(2016年3月20日現在:目安約14,000円)が別途必要です。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員/ボンド保証委員会

## ALPINE ツアー サービス 株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海ビル4階 ☎03-3503-1911  
大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557  
e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com



平成27年度(28年3月)  
常務理事会・連絡部会報告

**日時** 平成28年2月25日(休)  
[連絡部会] 18時～19時10分  
[常務理事会] 19時10分～21時  
**場所** 岸記念体育会館・会議室  
**出席者** 八木原会長、尾形・國松・高橋各副会長、小野寺、仙石、森下、京オ、水島、中瀬各常務理事、中島監事、松隈、西原、山本、小日向 各委員長  
(欠席) 亀山副会長、瀧本、西内の各常務理事、相良、澤田、増山、角田の各委員長 (21名中 14名出席)

### 1. 議事

- 平成27年度2月常務理事会議事録の承認について(異議無く承認。)
- 第4回理事会次第について  
報告事項と議案の順を入れ替え、業務執行理事・職務報告を報告事項に入れることで承認。
- 平成27年度補正予算(第2次)案について  
一部金額に訂正があり、訂正して理事会に提案することで承認。
- 平成27年度事業及び会計経過報告案について  
一部訂正したものを理事会に提案することを承認。
- 平成28年度事業計画案について  
個々の変更については修正して理事会に提案することで承認。

- 平成28年度収支予算案について  
前案を理事会に提案することで承認。
- 国体山岳競技開催基準要項一部改訂について  
当面は現行基準要項通りとする事で承認。
- 高校生の自然保護指導員について  
異議なく理事会に諮ることが承認された。
- U A A A ジョイント・ハンテングリ・カーリー・タウ応募追加  
久松靖氏(大阪ぼっば会)の派遣を承認。

### 2. 報告事項

- 平成27年度山岳共済会経過報告案について
- 平成28年度山岳共済会事業計画及び予算案について  
上記2点は共に代表者会議と同じ内容なので説明は割愛した。
- 指導員規約改定案・正式版について  
前回の常務理事会で承認されている内容だが文言が不適切だったので訂正した。
- 代表者会議報告について  
議事録を事前配布しており、説明は割愛。
- I F S C 総会報告について  
小日向委員長から報告があった。(詳細は本誌7頁のI F S C 総会報告を参照)

### 3. 後援報告、協賛等の依頼について

- 日本山岳写真協会後援依頼
- ハセツネ30K後援依頼
- 「東北の高校生の富士登山2016～登ろう!日本一の富士山へ」後援依頼

上記3件とも異議なく承認された。

### 4. 専門委員会動静(2月8日～2月24日) [報告]

- 国際委員会 2月17日(休) 事務局にて 出席者9名 委任4名  
ア) 第54回海外登山技術研究会の反省(2/13～14、参加者86名、2日間延べ参加者133名)  
イ) 平成28年度総会兼第55回海外登山技術研究会について(6月11日～12日、京都府立ゼミナールハウス)  
ウ) ロシア女性クライミングフェスティバルについて(4/11～24)  
エ) 国内外に向けてのHP案について  
谷川岳の群馬県条例の英文化について群馬県観光物産課に打診(八木原会長)  
オ) その他  
・ネパールの国境問題、燃料不足の問題  
・中国のエベレスト許可の2年延長は、一度発表されたが不透明になってきたとのこと。
- 競技部競技運営委員会 2月13日(土) 出席者15名 委任10名  
ア) 第71回国体におけるトップアスリート参加資格特例措置対象者の検討  
イ) 技術(審判)委員会報告  
・アジア大会時のI F S C ジャッジ養成コースで1名合格。  
ウ) 競技運営委員会報告  
・第11回ボルダリング・ジャパンカップ報告(1/30(土)～31(日) 加須市)  
エ) 国体後催泉の準備状況について  
・岩手国体: 第1回基準会議(4/30～5/1)  
イ) デジタル情報チーム 2月15日(月) 出席者6名 委任1名

デスゾーン  
標高8848M! 〈死の領域〉に挑む、世界最高峰サバイバル・アドベンチャー!

地球上で最も危険な場所へ

# エベレスト



ブルーレイ+  
DVDセット **2枚組**  
GNXF-1981 / ¥3,990+税



3Dブルーレイ+ブルーレイ  
+DVDセット **3枚組**  
3D本編収録ブルーレイと  
2D本編収録ブルーレイ&DVDの3枚セット  
■2D本編収録ディスク(ブルーレイ&DVD): GNXF-1981と同ディスク  
GNXF-1982 / ¥5,800+税

**4/22(金)**  
Blu-ray & DVD  
セル・レンタル  
同時リリース

ブルーレイ特典 ※=DVDにも収録  
●メイキング: 頂上を目指して\* ●山に親しむ ●エベレストの再現 ●真実を求めて\*  
●監督 バルタザール・コルマウクルによる本編音声解説

発売・販売元: NBCユニバーサル・エンターテイメント www.nbcuni.co.jp  
Film © 2015 Universal Studios. All Rights Reserved. Artwork © 2016 Universal Studios. All Rights Reserved.



- ア) リニューアルの業者決定(ワイズクリエイティブに決定する)
- イ) リニューアルのスケジュールについて(H27年度中に発注し10月完成)
- ウ) Webサイトの乱立問題について
- エ) HP記事掲載依頼のルーチン化
- オ) 「登山」の講習会・行事のカテゴリー変更の検討
- カ) 山岳競技のジャンル変更について
- キ) 英文案内ページ
- (4) 自然保護委員会
  - 2月18日 出席者15名
- ア) 山岳団体自然環境連絡会報告(1月22日、労山事務局)
- ウ) 関東地区山岳連盟総会・自然保護会議報告(2月6日、埼玉県立スポーツ会館)
- エ) シンポジウム「箱根、丹沢、富士山、伊豆半島におけるニホンジカ対策の現状」報告(2月13日、箱根)
- オ) 高校生の自然保護指導員について
- カ) H A T - J フォーラム「ライチョウを通して見る日本の自然環境」報告

- (2月13日、出席：廣田)
- キ) 環境省自然公園指導員功労者表彰推薦について(2名の候補を推薦調書提出)
- ク) 平成28年度常任委員について
- ケ) 伊吹山問題のその後について
- (5) 審判セッター会議
  - 2月20日(土) 出席者16名
- ア) 2015年度各大会での事例、その他
- イ) 今後の公式大会の運営について
- ウ) 審判、ルートセッターの資格関係
- エ) 大会規程について
- オ) セッター講習会での新規認定者について
- キ) 競技規則の変更(I F S C、国体)について

5. 日誌 (2月7日~2月24日)

- (1) 日本山岳写真協会新年会
  - 2月7日(日) 於：ルートイン東京・東陽町 八木原会長
- (2) 浅見豊参与、ご逝去(享年83歳)、2月10日

- (3) 第54回海外登山技術研究会
  - 2月13日(土)~14日(日) 於：オリンピック青少年センター 八木原会長、澤田委員長
- (4) ジュニア普及情報交換会
  - 2月13日(土) 於：東京スポーツ文化会館 八木原会長、西内部長、仙石副部長、中瀬委員長他
- (5) 代表者会議 2月14日(日) 於：岸記念体育会館 八木原会長、他66名
- (6) 救助技術高度化検討会
  - 2月17日(水) 於：丸の内永楽ビル24F TOK A-01会議室、町田遭対副委員長
- (7) 安全登山を楽しむためのガイドライン検討委員会 2月17日(水) 於：J A 長野県ビル12 F H会議室 西内登山部長
- (8) 青木正樹参与、ご逝去(享年82歳) 2月17日
- (9) 噴火時等避難計画手引き作成委員会 2月18日(木) 於：中央合同庁舎第8号館 尾形副会長
- (10) J O C 実務担当者研修会
  - 2月18日 於：シダックスホール6 F 小野寺事務局長、中川事務局長
- (11) 東京2020へ向けた追加実施候補競技団体との選手強化ミーティング
  - 2月18日 於：岸記念体育会館5 F 尾形副会長・専務理事、小野寺事務局長
- (12) I F S C 総会
  - 2月20日(土) 於：イラン・テヘラン 小日向委員長、安井委員
- (13) ルートセッター・ジャッジ会議
  - 2月20日(土) 於：渋谷フォーラムエイト 森下常務理事、山本委員長
- (14) 氷雪技術登攀研修会
  - 2月20日(土)~21日(日) 於：大山 瀧本常務理事、野村・切嶋常任委員
- (15) 自然保護指導員出前講座
  - 2月20日(土)~21日(日) 於：埼玉県・小川町げんき会館 松隈委員長
- (16) 会長諮問委員会
  - 2月24日(水) 於：岸記念体育会館 尾形副会長、小野寺、森下常務理事

寄贈図書

寄贈本	山と溪谷社	「ヤマケイ登山地図 槍・穂高/ 剣・立山」
	秩父市教育委員会	「平成27年度武甲山図画・作文作品集」
雑誌	岐阜県山岳遭難防止対策協議会	山岳白書「稜線」27年度まとめ
	東京新聞出版部	「ゆる山歩き 思い立ったら山日和」西野淑子著
会報	山と溪谷社	「ROCK & SNOW」071
	山と溪谷社	「山と溪谷」No.972
	(株) ネイチュアエンタープライズ	「岳人」No.826
	日本山岳文化学会	「日本山岳文化学会論集」第13号 2016年2月
	(公財) 健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.455
	(公財) 東京都スポーツ文化事業団	「Smile Sports」Vol.65 2016March
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第585号
	(一財) 日本万歩クラブ	「帰れ自然へアルク」2016 4・5
	N P O 日本トレッキング指導者協会	「JATI EXPRESS」Vol.51
	mountainkorea	「MAN & MOUNTAIN」No.317
	La rivista del Club alpino italiano	「Montagne360」marzo2016
	神奈川県山岳連盟	「ときわ木」169号
	(公財) 全日本ボウリング協会	「JBCnews」第532号
	中華民国山岳協會	「中華山岳」251
	(公社) 日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」No.317
	長野県山岳協会	「やまなみ」No.220
	(独) 日本スポーツ振興センター	「国立競技場」Vol.608
	(公財) 日本体育協会	「体協スポーツニュース・フェアプレイニュース」2016年3月14日号
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」No.494
	やまびこ山想会	「愛知岳連ニュース」第417号 3月15日
	中国登山協会	「山野 CHINA OUTDOOR」2016 03 総211期
	(公財) 日本山岳会	「山」No.850
	東京野歩路会	「山嶺」No.1033
	FEEC	「VERTEX」num264
	明治大学山岳部炉辺会	「炉辺通信」No.180
	Korea Alpine Federation	「大山聯」Vol.207
	日本ヒマラヤ協会	「ヒマラヤ」No.476
	おいらく山岳会	「山行手帖」No.676
(公財) 日本山岳会自然保護委員会	「草の目 木の芽」第121号	
横浜山岳会	「月刊山」1006号	
(公財) 尾瀬保護財団	機関誌「はるかな尾瀬」Vol.29	
(独) 日本スポーツ振興センター	「News Letter JISS」Vol.28	
立スポーツ科学センター		
京都府体育協会	「京都府体協時報」第121号	
くまもと観光コンベンションセンター	「くまもと観光コンベンションニュース」2016 Spring	

編集後記

数年前から協議を重ねて来たトレイルランニング協会が4月中に法人化される予定との事。トレイルランニングの発展と山岳環境の保護及び啓発活動を目的とするようだ。都市近郊での大会では、同じフィールドを利用するハイカー等との共存が出来るような指針・ルール作りに期待する。

(広報担当 水島彰治)

登山月報 第565号

定価 110円(送料別)  
 予約年間 1,300円(送料共)  
 昭和45年12月12日  
 第三種郵便物認可  
 (毎月1回15日発行)  
 発行日 平成28年4月15日  
 発行者 東京都渋谷区神南1-1-1  
 岸記念体育会館内  
 公益社団法人日本山岳協会  
 電話 03-3481-2396  
 F A X 03-3481-2395

NPO法人 北丹沢山岳センター  
 事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980  
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp  
 蛭ヶ岳山荘 TEL:090-2252-3203(衛星電話)  
 神の川ヒュッテ TEL:042-787-2276  
 和岡峠「峠の茶屋」TEL:042-687-2882  
 理事長・代表 杉本憲昭

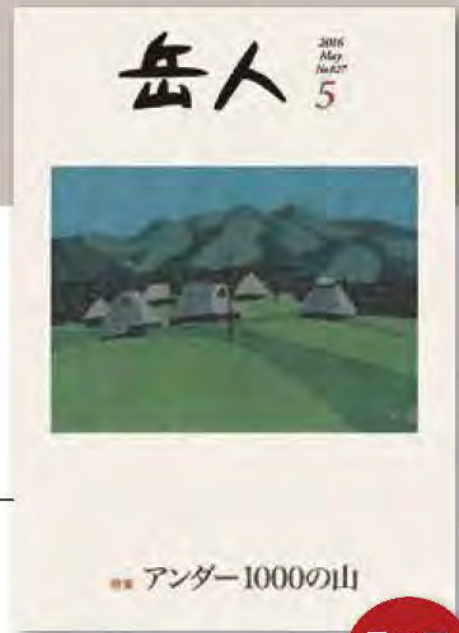
NPO法人 北丹沢山岳センター  
 神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会  
 事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980  
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp  
 ○北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会  
 ○陣馬山トレイルレース実行委員会  
 ○八重山トレイルレース実行委員会  
 ○東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会  
 ○上野原秋山トレイルレース実行委員会  
 ○南高尾城山陣馬サンセットトレイルレース実行委員会  
 ○峰山トレイルレース実行委員会  
 大会々長 杉本憲昭

山岳  
雑誌

# 岳人

山と人、  
時代をつなぐ  
「岳人」。

ひとたびページをめくると、先鋭的な現役クライマーから、散策を楽しむ登山愛好者、一線を退いた往年の登山家まで、「岳」を愛するすべての人々の想像力と冒険心をかきたてる、そんな存在でありたい。山の魅力や楽しさ、そこで生まれた文化を伝え、山と人との関係をより良いものにしたい、そんな思いを込め「岳人」をお届けします。



5月号  
4/15発売

## 年間購読がおすすすめです。

**購読割引** **送料無料** **限定品プレゼント**

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常本体価格12冊 年間購読12冊  
**8,160円** (税込8,812円) → **7,480円** (税込8,078円)  
1年間で680円  
1冊分無料



岳人オリジナル  
手ぬぐい & ペーパーナイフ

「岳人」2016年5月号

【特集】アンダー1000の山

【好評連載】フリチョフ・ナンセン「グリーンランド初横断」/ 石川直樹「アジアの山に生きる」/ 嵐山重篤「山と海の出逢い」ほか

本誌価格 680円 (税込)  
★モンベルのウェブサイト、全国のモンベルストアや書店にて発売中!

年間購読  
お申し込み方法

◎ウェブサイトで  
<http://www.gakujin.jp>

◎お電話で (受付後に無込用紙をお送りします)  
☎ 0120-982-682 / TEL 06-6538-5797  
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

◎全国のモンベルストアで  
<http://store.montbell.jp>

立ちどまらない保険。

**MS&AD**

三井住友海上



三井住友海上の安心



[www.ms-ins.com](http://www.ms-ins.com)



# HAKKAISAN



## Tested by heart.

Our DNA: Absolute Alpine. Our laboratory: the mountains. We have subjected our products to the most extensive health checks in the shadow of the mighty trio of the Eiger, Mönch and Jungfrau. Result: pulse-quickenning Swiss quality. Side-effects: heightened release of endorphins and adrenalin rushes. Now it's up to you – experience the new Mammut collection for yourself! [www.mammut.jp](http://www.mammut.jp)

マムートジャパン



**MAMMUT**  
Absolute alpine.

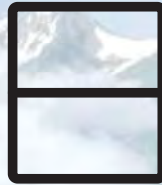
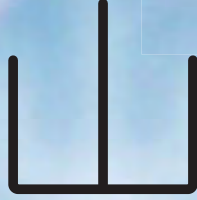
JMA

守ります。美しい日本の山。

祝

8月11日

(2016年より)



国民の祝日

山岳保険は

日本山岳協会 山岳共済会

<http://sangakukyousai.com>

〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-7-11-707

TEL:03-5958-3396 FAX:03-5958-3397

E-mail:sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月～金 10:00～17:00(祝日除く)

Webからも申込みます